

## 震度7の揺れや大津波を発生させる地震

わが国では過去に大規模な地震を経験してきました。今後いつ起きてもおかしくない地震への備えが必要です。

### 過去の大規模地震

出典：気象庁

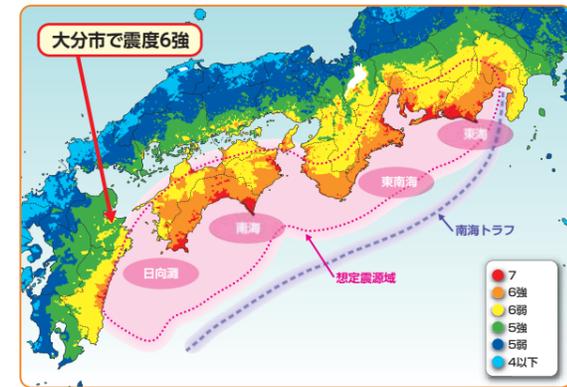
平成30年(2018年) 北海道胆振東部地震	平成30年9月6日発生。厚真町で震度7。多数の土砂災害や大規模停電が発生。
平成28年(2016年) 熊本地震	平成28年4月14日発生。益城町(4月14日、16日)、西原村(4月16日)で震度7。家屋等の被害のほか大規模な土砂災害が発生。
平成23年(2011年) 東北地方太平洋沖地震	東北地方太平洋沖地震による災害被害を「東日本大震災」と呼ぶ。平成23年3月11日発生。最大震度7を観測し、東日本を中心として広い範囲で被害が発生。東北地方を中心に大きな津波被害。長周期地震動や液状化現象による被害も発生。
平成7年(1995年) 兵庫県南部地震	兵庫県南部地震による災害被害を「阪神・淡路大震災」と呼ぶ。平成7年1月17日発生し、兵庫県内には震度7の地域もあった。家屋の倒壊や火災により大きな被害。高速道路や新幹線の高架にも被害。

### 南海トラフ地震はいつ起きる?

静岡県の駿河湾から九州の日向灘沖までのびる海底のプレートの境界が接する海溝(深海底の溝状の地形)を南海トラフといい、ここで起きる地震が「南海トラフ地震」です。

南海トラフでは100~150年間隔で大規模な地震が発生しており、前回の昭和東南海地震(1944年)および昭和南海地震(1946年)などを考慮すると、30年以内にマグニチュード8~9クラスの地震が70%~80%の確率で発生すると予測されています。

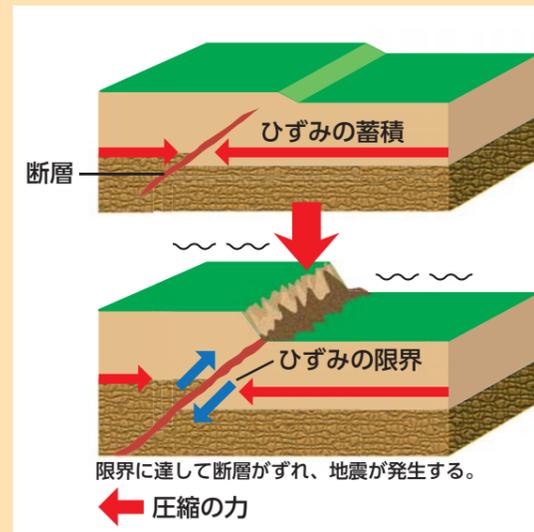
### ●南海トラフ地震の想定震源域



# 地震を知りましょう

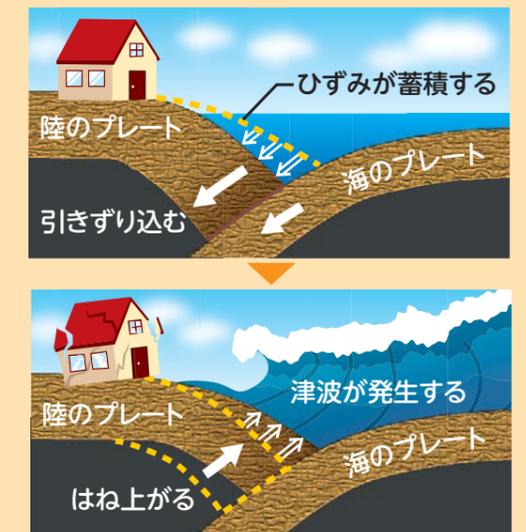
地震には、起こる場所や原因によっていくつかのタイプがあります。その代表的なものが、内陸で発生する比較的震源の浅い「活断層による地震」と、海と陸のプレートの境界あたりで発生する震源の深い「海溝型地震」です。

### 活断層による地震発生メカニズム



過去の発生例 ●阪神・淡路大震災(1995年)  
●熊本地震(2016年) など

### 海溝型地震発生メカニズム



過去の発生例 ●東日本大震災(2011年)など

### 大分市に関連のある活断層

本市周辺の主な活断層として、「中央構造線断層帯(豊予海峡-由布院区間)」等があります。活断層による地震は、一見確率が低いように見えますが、それは平均活動間隔が長いからです。実際、日本では活断層が数多く存在していて、多くの地震が発生しています。たとえ確率が低くても「地震は身近な危険」としてとらえる姿勢が必要です。



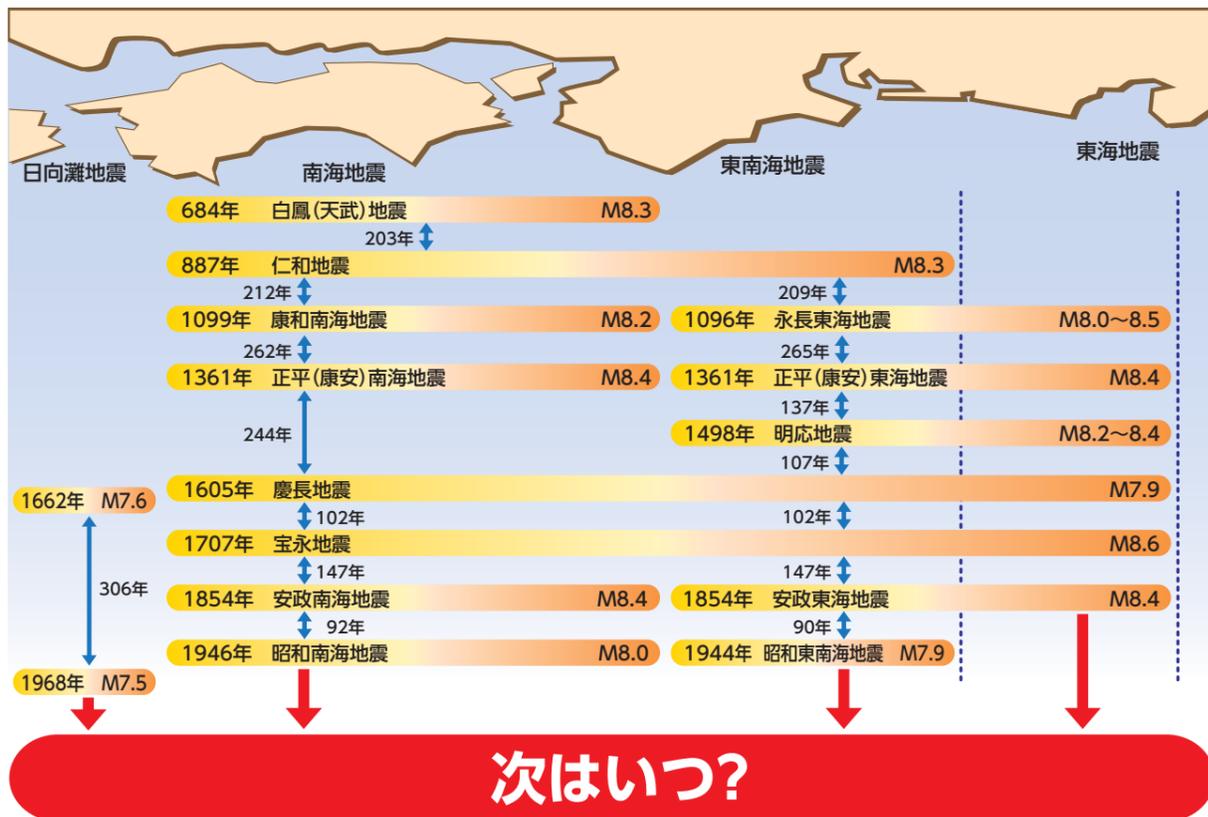
### 中央構造線断層帯の地震発生確率

中央構造線断層帯	マグニチュード	相対的評価	発生確率(%)			
			地震後経過率	30年以内	50年以内	100年以内
豊予海峡-由布院区間(長さ:約61km)	7.8程度	Zランク	0.2~0.3	ほぼ0	ほぼ0	ほぼ0

※活断層における今後30年以内の地震発生確率が3%以上を「Sランク」、0.1~3%を「Aランク」、0.1%未満を「Zランク」、不明(すぐに地震が起きることが否定できない)を「Xランク」と表記している。

※地震後経過率:最新活動(地震発生)時期から評価時点までの経過時間を、平均活動間隔で割った値。最新の地震発生時期から評価時点までの経過時間が、平均活動間隔に達すると1.0となる。

出典：地震調査研究推進本部



次はいつ?